

社会 第1学年

1年間の学習内容とねらい

社会科の目標

- (1) 広い視野に立って、社会に対する関心を高める。
- (2) 資料に基づいて多面的、多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深める。
- (3) 公民としての基礎的教養を養い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

評価の観点・方法

【評価の観点】

社会科では、次の3つの観点で目標がどれだけ達成されたかにより、評価します。

- ①知識・技能
 - ・ 社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身につけている。
 - ・ 社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
- ②思考・判断・表現
 - ・ 社会的事象から課題を見いだし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的。多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。
- ③主体的に学習に取り組む態度
 - ・ 社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、よりよい社会を考え自覚を持って責任を果たそうとする。

- A：十分満足できる
- B：おおむね満足できる
- C：努力を要する

【評価の方法】

- ☆定期テスト
- ☆作品・ノート・ワーク
- ☆授業の活動・態度
- ☆自己評価 等活用して評価します

特色ある学習方法

- ☆本校社会科では
- ①興味関心のある課題を設定し、主体的な学習を促す学習指導を行っています。
 - ②生徒が主体となるような多様な学習形態を工夫しています。
 - ③新聞作りや ICT 活用などを通して、生徒の個性伸長を図ります。

| 学期 | 学習内容 | 学習のねらい |
|-----|--|--|
| 一学期 | 《地理》 第1編 世界と日本の地域構成 第1章 世界の姿 第2章 日本の姿 | <ul style="list-style-type: none"> ・緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置、日本の国土の位置、時差、領域の範囲などを基に、世界の地域構成を大観し、理解する。 ・世界と日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目させて多面的・多角的に考察、表現する。 ・世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目させて多面的・多角的に考察する。 ・世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。 |
| 二学期 | 第2編 世界のさまざまな地域 第1章 人々の生活と環境 《歴史》 第1章 歴史へのとびら 第2章 古代までの日本 1節 世界での古代文明と宗教のおこり 2節 日本列島の誕生と大陸との交流 3節 古代国家の歩みと東アジア世界 | <ul style="list-style-type: none"> ・年代の表し方や時代区分の意味や意義についての本質的な内容を理解する。 ・世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解する。 ・農耕の広まり、東アジアとの接触などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本列島における国家形成について、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・仏教の伝来、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解する。 |
| 三学期 | 《地理》 第2章 世界の諸地域 1節 アジア州 2節 ヨーロッパ州 3節 アフリカ 4節 北アメリカ州 5節 南アメリカ州 6節 オセアニア州 《歴史》 第3章 中世の日本 1節 武士の政権の成立 2節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目させて、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察、表現する。 ・世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。 ・鎌倉幕府の成立などを基に、武士が台頭して主権の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解する。 ・武士の政治への進出と展開、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付ける。 |

社会 第2学年

1年間の学習内容とねらい

社会科の目標

- (1) 広い視野に立って、社会に対する関心を高める。
- (2) 資料に基づいて多面的、多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深める。
- (3) 公民としての基礎的教養を養い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

評価の観点・方法

【評価の観点】

- 社会科では、次の3つの観点で目標がどれだけ達成されたかにより、評価します。
- ①知識・技能
 - ・ 社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身につけている。
 - ・ 社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
 - ②思考・判断・表現
 - ・ 社会的事象から課題を見いだし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的。多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。
 - ③主体的に学習に取り組む態度
 - ・ 社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、よりよい社会を考え自覚を持って責任を果たそうとする。

- A：十分満足できる
- B：おおむね満足できる
- C：努力を要する

【評価の方法】

- ☆定期テスト
- ☆作品・ノート・ワーク
- ☆授業の活動・態度
- ☆自己評価 等活用して評価します

特色ある学習方法

- ☆本校社会科では
- ①興味関心のある課題を設定し、主体的な学習を促す学習指導を行っています。
 - ②生徒が主体となるような多様な学習形態を工夫しています。
 - ③新聞作りや ICT 活用などを通して、生徒の個性伸長を図ります。

| 学期 | 学習内容 | 学習のねらい |
|-----|---|--|
| 一学期 | <p>《歴史》</p> <p>第4章 近世の日本</p> <p>1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一</p> <p>(2) 江戸幕府の成立と対外政策の変化</p> <p>(3) 産業の発達と幕府政治の推移</p> <p>《地理》</p> <p>第3編 日本のさまざまな地域</p> <p>第1章 地域調査の手法</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ ヨーロッパ人來航の影響、織田・豊臣による統一事業、武将の生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎が作られたことを理解する。 ・ 江戸幕府の成立の経緯と政治制度のあらまし、幕府による大名や朝廷の統制政策を理解する。 ・ 産業の発達と町人文化、幕府政治の展開について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付ける。 |
| 二学期 | <p>第3章 日本の諸地域</p> <p>1節 九州地方</p> <p>2節 中国・四国地方</p> <p>3節 近畿地方</p> <p>4節 中部地方</p> <p>5節 関東地方</p> <p>6節 東北地方</p> <p>7節 北海道地方</p> <p>第4章 持続可能な地域づくり方</p> <p>《歴史》</p> <p>第5章 開国と近代日本の歩み</p> <p>1節 欧米における近代化の進展</p> <p>2節 欧米の進出と日本の開国</p> <p>3節 明治維新</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 縮尺の大きな地図や写真などを活用し、土地利用、地形などを読み取り、身近な地域で見られる様々な地理的事象に気づく。 ・ 調査結果の分析や調査結果の発表の学習活動を通して、地理情報の適切な処理方法や地理的技能を身につける。 ・ 日本の地形や気候、人口と人口密度、少子高齢化の課題を理解するとともに、国内の人口分布、過疎・過密問題を取り上げ、日本の人口に関する特色を大観する。 ・ 世界的視野から日本の資源・エネルギー消費の現状を理解するとともに、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題を取り上げ、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を大観する。 ・ 身近な地域の特色を生かした事例を選んで、農業をはじめとする諸産業の発達の様子を理解し、それらが発達した理由を考える。 ・ 日本の諸地域の地域的特色をとらえるとともに、そこで学んだことを基にして広い視野から日本全体の地域的特色に気づく。 ・ 地域的特色である事象を、他の事象と関連づけて考察することを通して、地理的な見方や考え方を育む。 ・ 身近な地域の課題の解決策を、類似の課題が見られる他地域との比較、関連付けを通して理解する。 ・ 欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解する。 ・ 江戸幕府滅亡までの流れを、開国による政治的及び社会的な影響とその推移に着目して考察し、表現する。 ・ 欧米諸国との関係と国内の改革を関連付けながら考察・表現し、日本がほかのアジア諸国に先駆けて近代化した理由を理解する。 |

社会 第3学年

1年間の学習内容とねらい

社会科の目標

- (1) 広い視野に立って、社会に対する関心を高める。
- (2) 資料に基づいて多面的、多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深める。
- (3) 公民としての基礎的教養を養い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

評価の観点・方法

【評価の観点】

- 社会科では、次の3つの観点で目標がどれだけ達成されたかにより、評価します。
- ①知識・技能
- ・ 社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身につけている。
 - ・ 社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
- ②思考・判断・表現
- ・ 社会的事象から課題を見いだし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的。多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。
- ③主体的に学習に取り組む態度
- ・ 社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、よりよい社会を考え、自覚を持って責任を果たそうとする。

- A：十分満足できる
- B：おおむね満足できる
- C：努力を要する
- 【評価の方法】
- ☆定期テスト
 - ☆作品・ノート・ワーク
 - ☆授業の活動・態度
 - ☆自己評価 等活用して評価します

特色ある学習方法

☆本校社会科では

- ①興味関心のある課題を設定し、主体的な学習を促す学習指導を行っています。
- ②生徒が主体となるような多様な学習形態を工夫しています。
- ③新聞作りや ICT 活用などを通して、生徒の個性伸長を図ります。

| 学期 | 学習内容 | 学習のねらい |
|-----|--|--|
| 一学期 | <p>《歴史》</p> <p>第5章 開国と近代日本の歩み</p> <p>4節 日清・日露戦争と近代産業</p> <p>第6章 二度の世界大戦と日本</p> <p>1節 第一次世界大戦と日本</p> <p>2節 大正デモクラシーの時代</p> <p>3節 世界恐慌と日本の中国侵略</p> <p>4節 第二次世界大戦と日本</p> <p>第7章 現代の日本と私たち</p> <p>1節 戦後日本の出発</p> <p>2節 冷戦と日本の発展</p> <p>3節 新たな時代の日本と世界</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 欧米諸国のアジア進出や日本の国際進出を関連付けて考察・表現し、日本が中国やロシアと戦争になつた理由を理解している。 ・ 第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましを理解し、民族運動の高まり、国際平和への努力、わが国の政治的自覚の高まりに気づく。 ・ 昭和初期から、第二次世界大戦集結にいたるわが国の歴史の経過を理解するとともに、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。 ・ 国際社会に復帰するまでのわが国の民主化と再建の経過や、国際社会への参加について、世界の動きと関連させて理解する。 ・ 高度経済成長以降のわが国の動きを世界の動きと関連させてとらえる。 ・ 自分達が生きる現代社会を概観し、学ぶことで、公民的分野への関心を高める。 |
| 二学期 | <p>《公民》</p> <p>公民的分野の学習の初めに</p> <p>第1章 現代社会と私たち</p> <p>1節 現代社会の特色と私たち</p> <p>2節 私たちの生活と文化</p> <p>3節 現代社会の見方や考え</p> <p>方</p> <p>第2章 個人の尊重と日本国憲法</p> <p>1節 人権と日本国憲法</p> <p>2節 人権と共生社会</p> <p>3節 これからの人権保障</p> <p>第3章 現代の民主政治と社会</p> <p>1節 現代の民主政治</p> <p>2節 国の政治の仕組み</p> <p>3節 地方自治と私たち</p> <p>第4章 私たちの暮らしと経済</p> <p>1節 消費生活と経済</p> <p>2節 生産と労働</p> <p>3節 市場経済の仕組みと金融</p> <p>4節 財政と国民の福祉</p> <p>5節 これからの経済と社会</p> <p>第5章 地球社会と私たち</p> <p>1節 国際社会の仕組み</p> <p>2節 ささまざまな国際問題</p> <p>3節 これからの地球社会と日本</p> <p>終章 より良い社会を目指して</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 公民的分野の学習を始めるにあたって、現代社会の課題や持続可能な社会について考える。 ・ 日本の特色としてグローバル化、情報化、少子高齢化などがみられ、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていることを理解する。 ・ 合意を得るためには効率と公正の考え方が重要であり、その考え方を理解する。 ・ 日本国憲法の基本理念（国民民主権、平和主義、基本的人権の尊重）を、社会の形成者としての立場から理解し、個人の尊厳と高性の本質的平等、自由・権利と責任・義務の関係が社会生活の基本となっていることに気づく。 ・ 国会を中心とする日本の民主政治の仕組みのあらまし、議会制民主主義の意義や地方自治の基本的な考え方について理解する。法の意義や法に基づく公正な裁判の保障について理解する。 |
| 三学期 | <p>1節 消費生活と経済</p> <p>2節 生産と労働</p> <p>3節 市場経済の仕組みと金融</p> <p>4節 財政と国民の福祉</p> <p>5節 これからの経済と社会</p> <p>第5章 地球社会と私たち</p> <p>1節 国際社会の仕組み</p> <p>2節 ささまざまな国際問題</p> <p>3節 これからの地球社会と日本</p> <p>終章 より良い社会を目指して</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済活動が、人間生活の維持・向上のために欠かすことのできないものであることを、身近な消費生活を通して理解する。 ・ 市場経済の基本的な考え方を理解し、現代の生産や金融などの仕組みや働き、企業の役割と責任について理解する。 ・ 国際社会が抱える諸問題について関心を高め、その解決のために国際的な努力について理解させる。 ・ 国際社会における日本の役割やあり方について考察する。 ・ 持続可能な社会を実現するために解決すべき社会課題を見いだし、自分には何ができるかを考える。 |